当社掲載面　相模経済新聞　2023年11月13日号［1面］

きらりと光る産業技術に相模原市から2社

相模原は城山工業、県はユニテックス推薦

今後の自信や事業の弾みに

「九都県市のきらりと光る産業技術」の表彰式も同日開かれ、相模原市内の2社が選ばれた。相模原市の推薦枠では城山工業＝緑区橋本台2＝の「折紙工法ハニカム製造技術」が受賞した。

「折紙工法」を応用したハニカム材の製作技術である。スリットと折り曲げ位置を変え加工することで高さやハニカムのサイズを調整し、従来のハニカム材では対応できなかった翼型断面などの可変断面、曲面、斜めコアなど自由な形状を可能にした。

一枚の平板から作成でき接着も必要としないためスクラップレスで環境にも優しく、強度を保持しながら軽量化・コストの低減を実現。折り方で、透光性や遮光性、遮音性などの機能性を持たせたパーテーションなど、デザイン性と機能性の両立が求められる構造物としても利用されている。

出席した西川義人取締役は「受賞したことで開発に弾みが出る。ひとつの事業の柱として進めていきたい。（各首脳からは）軽量化による省エネ効果でSDGs（持続可能な開発目標）に貢献できる点で注目していただいた」と話した。

神奈川県枠でも相模原市内の企業が受賞。南区に2つの事業所を置くユニテックス（町田市中町2）の大容量データ保存システム「USB LTO－8」が選ばれた。小杉恵美社長は「中小企業が切磋琢磨しものづくりに励む中で、このような賞をいただけることは自信、今後の目標につながる」と心境を語った。

USBで簡単にパソコンやデジタル機器に接続でき、秒速240メガバイトの高速データ転送で最大容量30テラバイトのデータを保存可能なシステム。大容量データの長期保存に最適なLTO（国際標準の磁気テープ規格）を活用しつつ、アーカイブソフトウェアと組み合わせることで、複数のメディアへの同時書き込みや、検索機能の高速化でより使い勝手のよいデータ運用ができる。さらにオフライン環境でデータを保管するため安全性が保たれる。

表彰は、九都県市首脳会議が首都圏共通の財産として卓越した技術を顕彰するもの。